
虹空の恋

peach-pit

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虹空の恋

【Zコード】

N1650D

【作者名】

peach-pit

【あらすじ】

菜の花高等部に通うことになった空野海と広田陸。2人はカレカノになることになった。しかし、陸には重い病気が……。この2人の運命は?!

出会い～別れ

私は空野海。菜の花高等部に入学する高校1年生。今は入学式。すつごい暇だ。高校生になると入学式はみんなはしゃべったり寝たりしている。

この学校には同じ学校だった仔がないから話す相手はないし、寝相が悪いし恥ずいので寝ることが出来ない・・・・。暇だ・・・。高校で新しい恋を探すつもりだったけど、良い男いないし。最悪だ。実際、この学校に通うことになったのはほとんど制服が「可愛」という理由だけだ・・・。適当に選ぶんじゃなかつた・・・。

15分ぐらいたつたのうか、校長の話が長く、ちょっとひとつひとつとしかけていた私の肩をトントンと誰かがたたいた。

「ねえ。」

小さな声で私の耳元にささやいた。

誰？！

私はビクッ としながら後を振り向くと、男がニコッと笑っていた。

「な・なに・・・？」

「あのさ、携帯もつとつ？」

「え・持つてるケド・・・？」

「ンじやあ！番号教えて」

「え？！」

私はビックリしながら番号とアドレスを教えた。

「サンキュー」

「う・うん・・・」

男子はウインクをして携帯をいじり出した。

私は前を向いて携帯の番号を見てみた。

「e・・ku? あの人 りく つていうんだあ
すると、携帯のバイブレーダーが鳴り出した。

私は慌てながら携帯を見てみる。

りくつていう人からのメールだった。

『はじめましてー！俺、広田陸ってんだ。お前は？』

・・・やっぱり・・・

私は返事を返す。

『はじめまして。空野海です』

返事はすぐ返ってきた。

『急に「ermen」な。なんか後から見ててなんとなく可愛いなあって思つたんだ！』

え・・・可愛い？私が・・・？

可愛いなんて言われたの初めてだ・・・。ちょっと私は顔を赤らめて返事を打つ。

『私可愛いくんなかないよ。でも言つてくれてありがとう』
こんなことをメールしあつてる間に入学式は終わった。

私は1・G。担任は女性だった。

休み時間、私は友達がいないので暇だった。その時・・・

「はあい

急に私の前に女の子が現れた。

「へ？？」

「ビックリした？？ハハツヘヘ私！夢原ぐみツヨリシベー！友達にならない？」

友達・・・。高校初めての友達だ。

「うんツ。よろしく！私は空野海

「海かあー・・・なんかいいね！あ。私のことはぐみつて呼んで」

「分かつた^ ^」

ぐみが友達になつてくれたおかげで高校生活が楽しくなつた。
帰りにはクレープを食べたり、本屋に寄つたり、ゲーセンで遊んだりした。

6：00頃、私は家に帰り、着替え、ベットに寝転んだ。

その時、携帯の着信が鳴つた。

・・・・陸だ・・・

私はメールを見てみる。

『今から会えるか?』

私はビックリしたが返事を返す。

『いいよ』

『それじゃあ、×公園に来て』

『分かった!』

私は家を飛び出した。

公園に着くと陸がいた。

「やつほ

「おー」

陸がなんとなくかっこよく見えた。

「どしたの?」

「・・・」

陸は私が聞いても答えてくれない。

「用がないなら帰る・・・ケド?」

言つてみたケド返事がないので帰らひつゝと思つた瞬間、

「好きだ」

「・・・へ?

私は頭が真っ白になつた。

「今・・なんて・?」

「だから!好きだつて言つたんだ!..!」

え・・好き?私のことを・・?

「う・・嘘でしょ・・・」

「嘘じやねーよ。つてか、なんで嘘つかなきやなんねーんだよ」

「え・・・えええ!..!マ・・・マジで?..!」

「マジ」

・・・・・ビーしよ・・・。畠田されたの初めてだ・・・。

私はなんだか恥ずかしくなつて逃げ出してしまつた。
ど・・・どーしよ・・・。

私はその夜寝られなかつた。

次の日、学校に向かう途中ぐみに会つた。

「海」 おっはあ

「ぐみおはよお

ぐみと話ながら教室に向かうと、教室に陸がいた。

陸を見ると昨日の事を思い出す。

私は返事のことを悩んでいると、

「海」

私の前に誰かが立つてゐる。

・・・ 陸だ。

「なに？」

「ちょっと來い」

「へ？」

陸は私の手を引っ張つて屋上へと向かつた。

「なんでこんなとこに？」

「返事」

・・・ 返事？

「昨日言わずに逃げ出したから今言え」

今言えって・・・えらそだなあー・・・。

私の気持ちは・・・

「わ・・私も好き」

こうして私達はカレカノになつた。

私達のカレカノ人生は結構楽しかつた。

授業を時々さぼり、陸が見つけた野原に行つたりした。

クリスマスは陸の家でパーティを開いたり、プレゼント交換をしたりした。

バレンタインにチョコを渡して喜んでもらつたし、ホワイトデーはネックレスをもらつた。綺麗だったなあー。

こんな生活を送つてゐるうちに2年が経つた。

今日は卒業式。

今日で高校生活が終わる。

なんだか悲しいな・・・。

・・・卒業式が始まった。

先生が順番に生徒の名前を呼ぶ。

「空野海」

・・・私だ

「はい」

私は舞台に立ち、校長先生に卒業しようじょうをもらひ。もらい終わった瞬間、涙が出てきた。

「広田陸」

陸だ。

「はい」

私が席に座り、陸を見た瞬間、陸と田が合ひた。

陸はウインクをしながら舞台に立ち、卒業しようじょうをもらひ。卒業式が終わり、みんなそれぞれ写真を撮つたり、メッセージを書き合つたりしていた。

私は陸のもとに行つた。

「ねーねー陸！」

「ン? なんだ海」

私は甘えるように陸を誘つ。

「写真撮らない? ?

「おーいいぜ! !

私は友達に写真を撮つてもらつた。

「じゃーいくよー! !

その時、

「海。好きだぜ」

陸はそう言つて私のほっぺにキスをした。

その瞬間をカメラは逃さなかつた。

撮つた写真を見てみると

陸が私のほっぺにキスしてる・・・。ちょっと恥ずかしい氣もある

ケド嬉しい氣もする。

こうして高校最後の卒業式は終わった。
そして4ヶ月後、陸から急にメールが来た。

『今から会お』

これから? どうだろ . . .

『いいよー』

『じゃあまた ×公園に来て』

『すぐ行くねえ!』

私は返事を送った後、すぐ家を飛び出した。

私が公園に着いた時にはもう陸は公園に着いていた。

「陸おまたせ」

「おー」

なぜか陸は暗い顔をしていた。

「陸? どうしたん?」

「海 . . .」

陸の顔は真剣だった。

「ン? 何? ?」

「俺達 . . . 別れよ

ヘ . . . ? 別れる?

「どうして? !」

「ゴメン . . .」

「そんなあ . . .」

私の瞳に涙が浮かんできた。

「海。デートしようぜ!」

「で . . . デート? ?」

「おうー!」

泣いている私をはげますように陸は私をデートに誘ってくれた。

「うん!」

私達は遊園地に行つた。

ジェットコースター、お化け屋敷、コーヒーカップ、メリーゴーラ

ンド、そして観覧車。

私達は遊園地にある乗り物を乗りまくった。

そして帰り、

「じゃあな

「・・・本当に別れるの？」

陸は静かにうなずいた。

「どうしてなの？理由言つてくれないと納得いかないよー。」

「理由は言えない・・・。幸せになれよ。海」

「陸・・・」

私が泣き出しそうになつた時、陸がキスしてくれた。

・・・これが最後のキス・・・

悲しいキスだつた・・・。

「じゃあな

「・・・うん」

陸が私から離れようとした瞬間、

「うつ

陸が地面に倒れこんだ。

「陸？」

私は不思議に思い、陸のもとへと走つて行つた。

陸は胸をおさえ、とても苦しそうだつた。

「陸！どしたの？！」

私は慌てながら救急車を呼んだ。

陸は手術室に運ばれた。

「陸・・・」

私は手術室の前で願つていて、

「あら？あなたは・・・？」

美人の女の人が私のことを不思議そうに見ている。

「あ・・・。私陸の彼女（元）で空野海です。あの・・・あなたは

・？」

「あらそうなの？私は陸の姉の広田湊です」

あ・・・。お姉さんいたんだ。

「陸ね・・・。あなたのことをむっちゃ話してたのよ。でもね、陸心臓病にかかるちゃってね。次発作がきたら危ないのよ。それで、あなたに悲しい思いさせたくないから、今日別れてくるって言つてたのよ・・・。次の発作が今日だつたなんて・・・」

湊さんは悲しそうな顔で言つてくれた。

心臓病になっちゃつたんだ・・・。だから別れくなつたんだ・・・。そんなことも知らず私は・・・。

そんなことを考えていたら涙が溢れてきた。

「絶対助かるわよ。陸・・・、あなたをおいて先になんか行かないわ」

「・・・はい。そうですね」

私は本当にそう願つた。

ウイーン

手術室の扉が開いた。

先生が出てきた。

「先生！陸は・・・、陸はどうなつたんですか？！」

湊さんが先生に聞く。

「・・・残念ながら」

え・・・？残念・・・？どうゆうこと・・・？

手術室からベットに寝ている陸が出てきた。

陸の顔は青白くなつていて静かに眠つていた。

「り・・く？」

私はそんな姿になつた陸が信じられなかつた。

「嘘よね・・・。陸・・・。いつもみたいに笑つてよ・・・。ねえ、

陸・・・」

私の瞳には再び涙が溢れてきた。

「陸・・・陸・・・。イヤッ！陸！―田を開けて―――やだよ陸――！」

「

私は陸にしがみついた。

「海ちゃん落ち着いて」

「湊さん！陸が・・・陸があ・・・！」

「仕方ないわよ・・・」

仕方ない・・・？もしかして・・・これが運命つてやつなの・・?

数日後、陸の葬式が行なわれた。

私ももちろん出席した。

そして葬式の帰り、朝降っていた雨がやんでいた。

でも・・・私の心はやんでいない・・・。

陸・・・。いっぱい遊んだね。クリスマスパーティも開いたね。プレゼント交換もしたね。バレンタインデーでチョコをあげて喜んでくれたね。ホワイトデーにはネットレスをくれたね。嬉しかったよ。今もつけてるよ。学校もさぼっちゃったね。次の日には絶対職員室に呼び出されて先生に怒られちゃったね。でも・・・、陸となら怖いものはなんでも楽しかったよ。陸・・・。

そんなことを考えていたら涙が出てきた。

「泣いちゃダメッ！陸に私の悲しい顔を見せちゃダメなんだ！・！」

私は手で涙をぬぐうと・・・

・・・空には虹がかかっていた。

「陸・・・。陸は虹になつたんだね。虹になつて私を見守ってくれてるんだね」

こう思ふと元気が出てきた。ありがとう・・・陸。

（完）

あとがき

私はこの小説を書いた。卓球ラブです。

この小説を読んでいただいた方、ありがとうございます。

私はこの小説が初めてでした。

今映画でもやつてゐる『恋空』に少し似てゐるなつと投稿した後気づきました。

けれど、恋空を読んだ後に書いたので仕方がありません。
まあ・・

読んでいただいた方ありがとうございます！

この内容結構考えました。

一高校の入学式で偶然2人が出会う一
ホント偶然ですよねー・・・。

こんな偶然が本当にあつたらいいと思いますわあ。

しかも

一「後から見て可愛いと思つたんだよねえ」
これは自分でもホント驚きました。

お前は後ろからでも顔がわかるんかツ つて感じです。
でも、好きな人に可愛いって言われたら嬉しいですね。
まあ、

それは誰でも一緒だと思います。

私もそうですから)(笑

つてゆうか、

本当に海は可愛いんでしょうかねえー・・・?

それぐらい作者が知つとけよッ

つて思いますね。

まあ

私のイメージでは可愛いんですケドね。

でも最後は悲しいですねー・・。

心臓病で亡くなつてしまつなんて・・。

でも、

空にかかっている虹は陸なんだつて分かつたのはよいんですけどね。

いつも彼が見ている つて思えるんだから・・。

実話だつたらマジで泣いてます〜 ((笑)

まあ・・

私もこひんな恋をしてみたいです。

ほとんどやんな気持ちで書きました

これからも

私が書く小説をよろしくおねがいしますッ!~!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1650d/>

虹空の恋

2010年10月11日01時43分発行